

2002 リュートの会 定期演奏会

2002年11月4日(月) 午後2時開演 聖グレゴリオの家 聖堂

第I部

1. 朝倉 靖雄 /ルネサンスリュート/
フリギア旋法によるファンタジア A. リッペ

2. 岡田 紀世史 /バロックリュート/
ファンタジア
パッサカリア S. L. ヴァイス

3. 宇野 弘樹 /ルネサンスリュート/
ソナタ IXより プレリユードとアルマンド
..... ザンボニー・ロマーノ
アーチリュートの曲ですが、10コースまであれば十分です。
最初聴いたときはなんて退屈な曲だと思いましたが、繰り返し
聞いているうちに心地よくなり頭の中を占領するようになり
ました。退屈に聞こえないように頑張ったので絶対寝ない
でちゃんと聞いてください。弾きながらチェックしてますよ。
私が眠ったりして.....

4. 青山比呂乃 /ソプラノ/ 矢澤 勝之 /リュート/
私の愛と T. モーリー
愛しい人、しばらくここにいて J. ダウランド
来れ、悲しみに沈む夜よ J. ダウランド
眠れ、微睡む眼よ T. モーリー

トマス・モ・リ - (c.1557-1602)とジョン・ダウランド(c.1562-1626)は、ほぼ同じ時代に多くのリュートソングを残しているが、作風はかなり違う。メロディは、モ・リ - の方が単純だが、それをポリフォニックな掛け合いに仕立てて、リュートで弾くのが難しい事も多い。4声体の合唱のマドリガルなどを多く作っている作曲家の面目躍如である。一方のダウランドは言わずと知れたリュート弾き。同じポリフォニーに仕立てても、いかにもリュートらしい曲、リュートを生かした曲になっている。ただし、名人が作った曲のこと、妙にその技を見せびらかすような部分もまま有るのがおかしい。また概してメランコリックな曲が多い。(青山比呂乃)

5. 小松俊二 /バロックギター/
Otros Canarios por la A
Zarmbeques. O. Muecas
Fandango S. de ムルシア

6. 米田 考 /バロックリュート/
メヌエットと変奏
..... P. ロカテッリ(J. B. ハーゲン編曲)

第II部

7. 東京コンソート・オブ・ヴァイオルス
渡辺 マリ /ヴィオラ・ダ・ガンバ/
佐藤 一也 /ヴィオラ・ダ・ガンバ/
矢澤 勝之 /ヴィオラ・ダ・ガンバ/

3声のファンタジア G. コペラリオ
コペラリオ(1575?-1626)は、イタリア音楽から大きな影響を受けたイギリス人。リュート歌曲の作曲家としても知られている。
エア 30番 J. ジェンキンス
ジェンキンス(1592-1618)が書いたアンサンブル曲集、Airs for treble and bass instruments からの1曲。
ファンタジア 3番 H. パーセル
イギリスのオルフェオと讃えられたパーセル(1659-1695)は、様々な分野の音楽を残している。この曲は、3声で書かれた器楽曲。
プレリユード 24番 J. S. バッハ
バッハ(1685-1750)の平均律クラヴィア曲集からの編曲。

8. 伊左坂則彦 /ルネサンスリュート/
Solus cum sola J. ダウランド
John com Kisse me now 作者不詳

9. 津山さゆり /ソプラノ/ 田村 仁良 /リュート/
The Miller of the Dee
The Three Ravens
The Oak and the Ash (English folk song)

3曲のイギリス民謡をお届けします。一曲目は「ディー河の粉屋」。ディー河はウェールズ北部とイングランド西部を東と北に流れてアイリッシュ海に注ぐ河です。2曲目の「三羽の鴉」は、すくなくとも1611年は知られていて、“The twa Corbies”ともいわれます。これに従ってロシアの詩人プーシュキンは「スコットランドの歌」を書きました。有名な曲だけに旋律や歌詞にいろいろな編作があります。3曲目の「柏のトネリコの樹」は17世紀のヴァージナルのための曲集に、はやくも見られます。このメロディーはベートーヴェンのスコティッシュ・ソングのコレクションにも見ることができます。

10. 保刈明子 /歌/ 倉又義克 /ルネサンスリュート/
Dolcissimo sospiro G. カッチーニ
Si dolce è il tormento C. モンテヴェルディ

11. 五十嵐正明 /バロックリュート/
アルマンド
ブーレ
前奏曲とフーガ 八長調 S. L. ヴァイス